

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作成し、毎日意識して取り組めるよう、事務所に掲示してある。 また、法人の理念を、毎日の申し送り時に職員で唱和をしている。	基になる法人の理念に地域の街づくりへの貢献や地域社会の変化等にも対応すべきことが含まれており、ホームの理念もそれに連動し、「家族・地域とのつながりを推進する」等、独自の三つの理念が掲げられている。毎日午後の申し送り時には法人及びホームの理念を唱和し、日々、サービスの提供場面で理念が実践できるよう取り組んでいる。事務所からホームへと通じるドアにも掲示し職員は仕事に就く際に一読し気持ちを新にしている。職員も自分の言葉として理念を語る事ができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が地域住民と関わりを持てるよう、散歩や買い物の際挨拶をしたり、地域の行事に参加している。施設の行事に参加していただけるよう回覧板を通して広報している。	地元地区の納涼祭や運動会にお誘いをいただき全員ではないが入居者が参加している。施設全体の夏祭りや創業祭に地区の住民の方を招待している。入居者と職員と一緒に諏訪湖の美化清掃ボランティアとして「諏訪湖アダプトプログラム」に参加している。近くの保育園園児とも交流しており、入居者と併設デイサービスの利用者手縫いの雑巾を御礼として寄贈している。お話しボランティア、歌、タオルで動物を作ることを教えてくれるボランティアなども訪れている。中学生の職場体験学習の受け入れも毎年継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、実施なし。今後、ご家族や地域の方にに向けた認知症の勉強会機会を設け、地域と共に認知症の方を支える体制作りを検討したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回開催できるよう実施している。参加者、利用者様などの意見を参考にサービス向上のための取り組みを行っている。施設新聞を通し、日々の様子をお伝えしている。	年4回会議が開かれている。入居者、家族、区長、市役所職員、広域連合職員などが参加し、ホームの行事や活動、入居者の生活の様子や職員の異動などを報告し、情報や意見交換を行っている。貴重な意見や要望は職員会議で報告しサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで、市役所の介護福祉課の方に入退居者の有無や利用者様の状態、ケアの取り組みなどを伝えている。	事故報告や書類提出、時には入居希望の方の情報収集などにも市役所を訪問している。介護認定更新時に市の調査員が来訪し家族とともに職員が情報を交換することもある。市から派遣される介護相談員も長い方は3年続けて月に1~2回来訪し、ホーム行事にも参加していただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は、実施なし。11月末の自主会議にて実施予定。	法人内に事故予防や衛生の委員会があり毎年「身体拘束をしないケア」についての研修を実施している。ホームは複合施設の2階にあるため、必要な場合には家族とも相談の上、転落防止のために施錠することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は、実施なし。11月末の自主会議にて実施予定。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、勉強会の実績なし。11月末の自主会議にて実施予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約・解約等の内容を説明し、ご家族の意向を伺い、ご理解いただけるように努めている。文書にて提示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のつづやきとして、利用者様の小さな一言も汲み取り、希望や訴えなど、毎月挙げ会議等で対応策を検討し、実施している。	入居者の殆どが自分の意見を表すことができ、家族からも来訪時に意見、要望等を聞いている。各入居者の誕生日会が行われ、家族も参加している。年2回満足度調査が実施されており、結果を分析し、ホームの運営に活用している。入居者のつづやきから銘々されたホームの新聞「だるま便り」に日々の様子や暮らしぶりを掲載し伝えており、コミュニケーションに役立っている。その他に家族に報告する手段として一人ひとりの介護記録を作成しており、今年度からパソコン上から入力する仕組みになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の自主会議や申し送り時等に職員からの意見や提案を募る機会を設け、検討している。又、チャレンジシートや面接時に意見を言う場を設けている。	毎日15:00からの申し送りや不定期ではあるが職員会議で検討事項について話し合っている。今年度の法人QC大会でホームの業務改善について発表する機会を得ている。法人内には人事考課制度が導入されており、各職員はレベルに応じ目標を定め、半期に一度管理者や所長との面談の機会に意見や要望を伝えている。	職員の意見や提案を聞く機会として職員会議は重要な場と思われます。時間外の問題等があるとは思われますが2ヶ月に1回程度の定期的な開催により色々な意見等を集約し運営に反映されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標を持って、働けるように各ツールを使用したり、個々に面接を行い、各職員の目標を共有しあい、意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせた学びの機会を持つよう法人内外の研修の情報収集をし、研修参加の促進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年定期的に同法人内の事業所間の交換研修を行っている。又、法人全体の職員を対象とした研修の実施により、交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前(入居)にご本人、ご家族との面接を重ね、現状の不安なこと、利用してからの希望すること等をよくお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のサービス利用状況を確認しながら、他のサービス機関の情報も必要に応じて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事や掃除を行い、食卓にて同じ料理を味わうなどして会話の機会を多く持つように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から情報共有に努め、ご家族来所時には利用者様と過ごせる場所の確保と雰囲気作りに配慮している。ご家族にも外食等の機会を設けていただき、一緒に過ごす時間を持ち続けていただくようご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の利用者様が多く入所されており、昔勤めていた会社の友人や兄弟、親戚の方が、日々面会に来られている。又、近隣店舗への買い物や馴染みの場所へのドライブ等行っている。	入居前に行っていた和菓子屋や洋服屋へ出掛ける入居者がいたり、ドライブがてら諏訪大社や住んでいた所の近くにある紅葉の名所などへ外出する方もいる。ご家族の協力を得て、お墓参りやお盆、年末年始に帰省し4泊ほどする入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互いに声を掛け合い、助け合える環境を整えている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居後も必要に応じて相談援助や面会を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望をつぶやきとして汲み取れるよう努力し、希望を個別外出として計画を立てたりご家族からに協力をさせていただいたりしながら、実施できるよう努めている。	殆どの入居者が自分の思いや意向を表出できる。入居者一人ひとりのつぶやきを記録に残し、希望などの把握に努めている。入居者同士の会話も多く、お互いをいたわり合う場面も見られた。昼食時ご飯のお代わりにまで気を配っていただくなど他者への心配りには衰えは感じられなかった。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に作成しているフェイスシートやプロフィール表を活用しながら、これまでの生活スタイルを大切にしながらケアにあたっていくよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンス等を通して、個々のできること、お好きなことに視点を置き職員間で情報共有ができるよう努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。利用者様の状態変化に応じて計画書の見直しを行っている。	自立した生活が送れるように全職員で意見を出し合い介護計画を作成している。作成された介護計画は入居者家族に説明している。職員の担当制をとっており、毎日パソコン上でモニタリングを行ない遂行状況を確認している。今までは3か月ごとに心身状況のアセスメントを見直しを行っていたが、長いスパンでも支障のない方には6か月での見直しも行う予定である。入居者の状態や意向等に急激な変化が生じたときには関係者で検討し、新たな介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン入力での介護記録(ポイントケア)にて、情報共有を図っている。毎日、ポイントケアにて介護計画書の実施の有無について評価をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス利用者様との交流を図ったり行事に参加している。また、設備を活用している。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会の一員として、諏訪湖の清掃活動や地区の行事に参加して地域住民との交流を図り、充実した生活が送れるよう支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な際は、ご家族に連絡し希望の病院をお聞きして対応している。また、地域の医療機関より往診を含めた協力を得ている。	入居者、家族の意向に沿いかかりつけ医を継続している。協力医による往診もある。定期受診については基本的に家族にお願いしているが、急な体調の変化や事故等の発生時には職員が付き添い家族等への報告も管理者に一本化している。緊急時には併設デイサービスの看護師に相談ができ、かかりつけ医や協力医療機関とも連携し適切な治療が受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービス看護職員と随時連携を図っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院関係者との連絡をまめに取り合い、ご本人の状態把握と今後の方針・予定等を聞き、必要に応じて動くように努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態やADLに変化が見られた際には、ご家族と今後の方針を話し合い、当事業所で出来る範囲のことを説明している。また、主治医やケアマネ等にも相談を持ちかけ、多方面から支援できるように取り組んでいる。	状態が変わった時に早期に話し合いを持ち、重度化が予測される場合には家族と繰り返し話し合い、協力病院への入院や介護保険施設への移動支援が行われている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による定期的な救急救命法を受講している。又、日々の申し送りにてその都度対応について確認をしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を計画し、利用者様・職員で実行している。また、災害時の近隣住民による協力体制も整えている。	年1回総合防災訓練が行われる他、年間計画を組み、毎月複合施設全体で何らかの訓練を実施している。複合施設南隣のお宅を始め近隣の住民には万が一の協力をお願いしている。市との協定で複合施設全体が要援護者の緊急時の避難場所になっている。昨年10月にはスプリンクラーも設置された。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同法人内の事業所間で、情報を共有しながら言葉掛けや対応を検討、実施している。	個人情報保護についての研修が年1回行われており、職員も理解しており秘密保持の徹底が図られている。サービス提供時においてもプライバシーを損ねない対応を実践している。法人の理念にも「利用者様の自己決定を尊重し、……」とあり、ホームの理念にも「利用者様を第一に……」と入居者の誇りを尊重しつつごく自然に対応している。入居者の名前も本人の希望する形で声かけられるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の希望や思いを聞いた際は、つぶやきとして申し送りノートに記入し、職員間で情報共有し、個別外出や行事の中に取り入れ、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや好みを大切に、ご希望を伺い、買い物や散歩に付き添ったり、好きな時間にお好きなことができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の嗜好に合わせた身だしなみに配慮している。ご家族の了承を得て、美容室へ定期的にお連れしている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、4品の副食を用意し食卓の彩りを楽しんでもらうと共に、個々の力に応じて食事準備や片付け等に職員と一緒に家庭的な雰囲気の中で参加していただいている。	全員の入居者が自立している。入居者の力量に応じ食材の下ごしらえ、味見、テーブルふき、食器洗いなどを職員と共に行っている。オープンキッチンなので入居者は食器の音や料理の匂いが漂う中で職員と話をしたりゲームをしたりしている。献立は入居者の希望を聞き、職員が交替で1週間分を立てている。キザミの方が若干名いるが職員も一緒に食事をしており、屋上の庭園のプランターで作ったラディッシュやネギ、ミニトマトも食卓に上り話しが盛り上がる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや摂取量を確認し、翌週の献立を作成している。個々の状態に合わせて、食べ易いようにおかずの大きさに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各利用者様に応じた口腔ケアを実施している。夜間は義歯を預かり、定期的に義歯洗浄剤を使用して義歯の清潔保持に努めている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にアセスメントを行い、個々に合ったオムツの見直しや、トイレ誘導の時間を検討し、排泄の自立支援を行っている。	自立の方が殆どである。トイレも3つの居室に一つ配置されておりそれぞれ居室から近い。トイレでの排泄ができるように時間帯で誘導している。布パンツの方が半数以上でリハビリパンツとパット使用の方もいる。夜間も若干名ではあるが定時に声がけをする方がいる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立作成時、便通に良いとされている食物繊維の多い食材の使用に努めている。体操や散歩等、身体を動かす機会を多く持てるよう努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午前・午後とお好きな時間に入浴を楽しんでいただけるように取り組んでいる。	毎日入浴が可能であり、入りたい時に入浴できる。習慣で毎日入浴する方もおり、少なくとも2～3日に1回は入っている。血圧や体調面から控えることはあるが嫌がる方は殆どいない。体調によっては一時的にデイサービスの器械浴が利用できるが今のところは必要がない。入浴剤を使ったり、ゆず湯など季節の香りも楽しんでいる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で休んでいただけるよう環境を整えている。又、状況に応じて休息していただくよう声かけや誘導を行っている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後や定期薬に変更があった際等、全職員が把握できるよう処方箋をファイルに挿み確認している。服薬マニュアルを作成し、適切な服薬介助に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスシートやプロフィール表、利用者様の御話より、生活歴や趣味等の情報を共有し、お好きなことが行えるよう支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	偏りがないようチェック表を基に、散歩や買い物、ドライブの機会を多く持てるよう努めている。又、ご家族にも協力を得ながら、外食(自宅も含め)やドライブ等の外出の機会が多くある。	外に出る時に車椅子が必要となる方もいるがホーム周辺の散歩に出掛けている。デイサービスの車を使い入居者全員でお花見やぶどう狩りに出掛けることもある。家族に協力をいただき個別外出にも力を入れており、食事外出や旅行、自宅での外泊などの支援も行なっている。

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得て、個々の能力に応じて財布を所持し買い物時、ご自分にて支払いをされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や日常のやりとりでも、希望に応じ手紙等出せるよう支援している。電話についても、希望があればいつでもかけていただけるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや植物を飾ったり、季節の生花や造花を随所に置き、季節感を出している。食堂から見えるテラスに草花やプランターを置き、季節の花や野菜の手入れを楽しんでいただいている。	居間兼食堂には大きなガラス戸を通して陽が差し込み明るい。中央の畳コーナーにはテレビも置かれ普通の家庭の団欒の場と同じ配置となっている。廊下の壁には懐かしい製糸工場の写真とともに入居者のスナップ写真なども貼られていた。空きスペースを収納場所として利用するなど有効に利用されている。南側には広いウッドデッキと芝生の敷き詰められた屋上庭園があり、解放感もあり、暖かな時期にはプランターで野菜作りが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置したり、居間にて気軽に休めるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、極力ご本人の使い慣れた衣類や家具などを持参していただけるようご家族に相談している。又、ご家族との写真を飾ったり、居心地よく過ごしていただけるような工夫をしている。	居室には洗面台があり、収納用のスペースが入り口上部に設けられている。居室の壁には職員手作りの誕生日カードや敬老の日のメッセージカード、感謝状などが張られている。家族の写真を置いたり、ベッド、衣装ラック、衣装箱、ベッドなどを整然と配置した居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者様の出来ることに着目したアセスメントを行い、計画書を作成し実施している。トイレの場所など分かりやすいよう掲示物等で工夫している。		